

原水協活動 FAX News

発行: 原水爆禁止日本協議会

電話 03 5842 6031 FAX 03 5842 6033

URL <http://www.antiatom.org/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2009年1月15日 No. 4

マレーシアで原爆展開催 前首相も署名

25名からなる日本原水協マレーシア原爆展代表団は、13日から国際イスラム大学で原爆展を開催しました。土田弥生事務局次長の手記を紹介します。

国際イスラム大学で原爆展 学生は釘付け

国際イスラム大学は国立大学で、学生数2万人、キャンパスは広大です。女学生は、イスラム教徒らしく、頭からカラフルなスカーフをかぶり、長袖・ロングのスカート身をまとっています。

ほとんどの学生が来るという学生食堂などがある学生会館の入り口にパネルをおき、広島・長崎の被爆の実相を伝えるポスターを展示しました。また、学生会館のまわりの芝生の上に、神奈川の被



爆者の会が作成した被爆者が書いた32枚の絵を並べました。お昼近くになると続々と学生が集まり、ポスターや絵に見入っていました。被爆の実相を見たのは始めての人が多らしく、「今でも被爆の影響があるのか」「誰が一体こんなことをしたの?」「アメリカは今でもイラクで同じことをしている」など、被爆者や団員への質問や、意見の交換が続きました。真夏の日差しのもと、多くの学生が被害の写真を見て、顔をしかめたり、悲しい顔をしていました。被爆者を紹介すると少し驚いた様子でした。2、3時間あまりで、推定2500人の学生が原爆展を見て、短時間で「核兵器のない世界を」署名が720筆集まりました。14日も同大学で原爆展が続けられ、前日を上回る数の学生や教官が訪れました。署名も前日同様、700筆以上集まりました。

マハティール前首相も署名 原水爆禁止世界大会に強い関心

14日午後、マハティール・モハマド前首相を訪ね、核兵器の廃絶や平和に関して懇談しました。日本原水協を代表して高草木博氏は、原爆展開催に当たってマレーシア政府が大きな助力をよせたことに感謝しました。またマハティール氏が首相を務めていた当時から世界大会に連帯のメッセージを寄せ、2001年以来、政府代表を派遣していることにあわせて感謝を表明しました。さらに、2010年春のNPT再検討会議を前に世論喚起が重要になっているとして、署名「核兵器のない世界を」と被爆の実相普及の努力を強めていることを説明しました。ついで、日本被団協の田中熙巳事務局長は、核兵器廃絶のために日本の被爆者が被害の実相を伝える努力を続けてきたことを述べ、マレーシア政府の核兵器廃絶努力が被爆者を勇気付けていると伝えました。

マハティール氏は、日本は唯一の被爆国であり、その実相と廃絶をよびかける努力は特別に重要だと述べ、代表団のマレーシア訪問を歓迎しました。また、氏は、自分もNGOとしてこの署名を集めたいと述べ、その場で差し出された署名用紙にサインしました。さらに、氏は、核廃絶とともに戦争そのものを廃止させることが重要だと強調し、団員の発言に応えながら、憲法9条を守る努力を励ましました。最後に、代表団はマハティール氏が原水爆禁止世界大会に出席するよう招請し、マハティール氏も大会の活動に強い関心を示しました。